



OSAKA SODA

2024年3月期 2Q決算・事業計画 および 新中期経営計画説明会

2023年12月6日

株式会社 大阪ソーダ

はじめに：AC製造設備主要機器不具合の状況報告

現在までの経過

- 4月4日 水島工場アリルクロライド（AC）製造設備主要機器に不具合発生
- 5月8日 AC製造設備の部分復旧により一部の製品で生産を再開
- 6月13日 AC製造設備の稼働率を70%に復旧
- 7月27日 AC製造設備主要機器の不具合が再発
- 8月11日 AC製造設備の部分復旧により一部の製品で生産を再開
- 11月21日 AC製造設備の稼働率を70%に復旧

今後の見通し

2024年3月、水島工場の定期修理においてAC製造設備の全面復旧を行います。

皆さまには、多大なるご迷惑、ご心配をおかけしておりますが
引き続き、全面復旧に向けて取り組んでまいります。

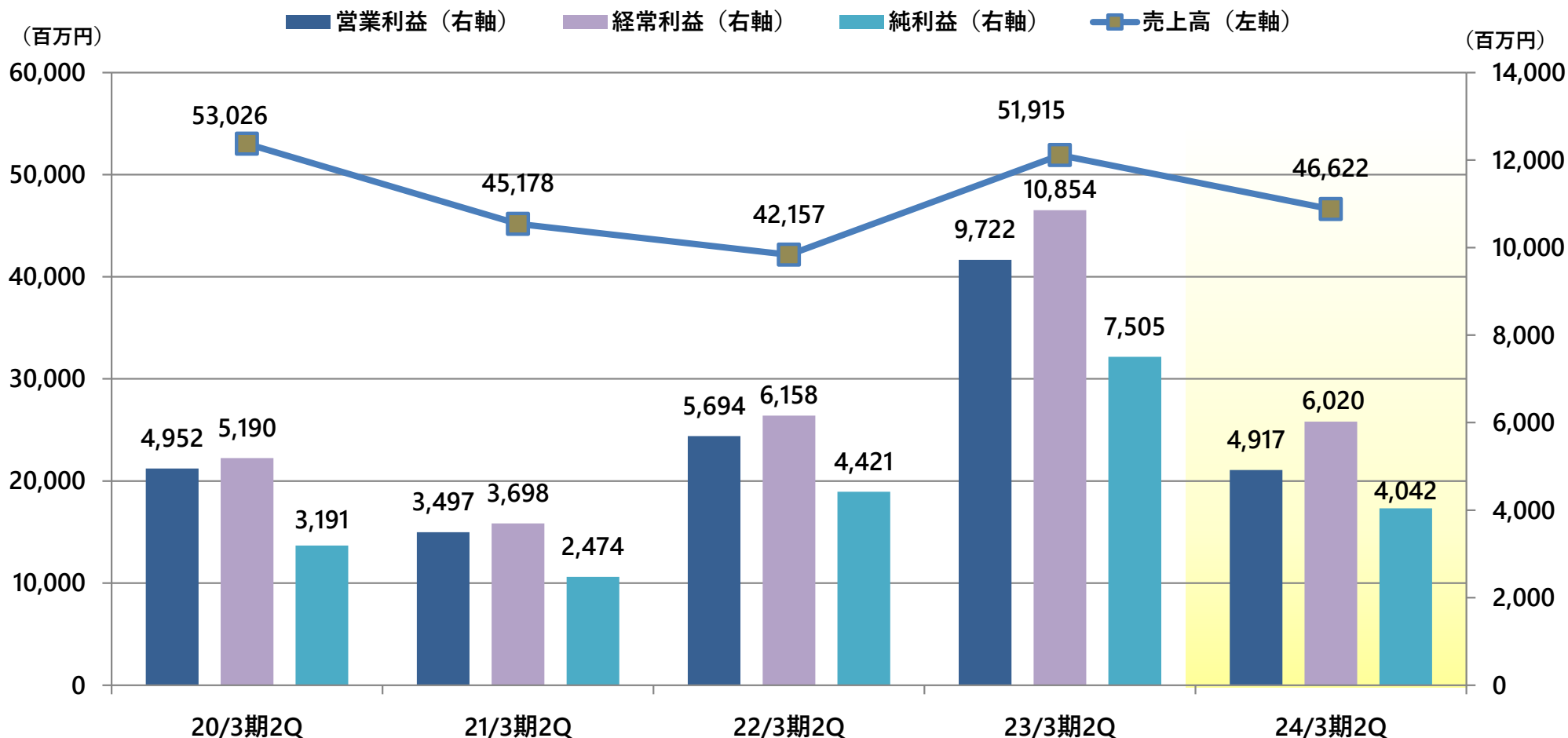


2024年3月期 2Q業績

業績推移 (20/3期2Q~24/3期2Q)

■ AC製造設備主要機器不具合の影響および国内外での需要低迷により減収減益

売上高および営業利益、経常利益、当期純利益の推移



(※)22/3期より「収益認識に関する会計基準」等を適用

2024年3月期2Q 概況

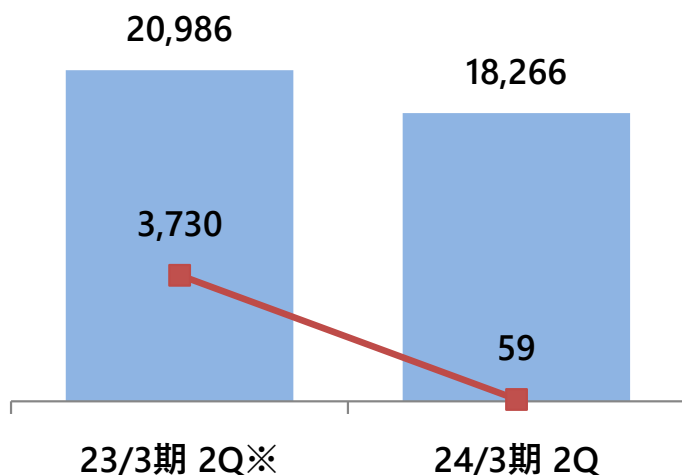
- 生産トラブルの影響は、売上高▲35億円、営業利益▲33億円となった
- 各段階利益は、対前年同期では減益となるも、期初計画に対して上振れで着地

	23年3月期2Q		24年3月期2Q		増減		期初計画	達成率 (%)	計画差異
	(百万円)	構成比 (%)		構成比 (%)	金額	率(%)			
売上高	51,915	—	46,622	—	▲5,293	▲10.2	51,000	91.4	▲4,378
営業利益	9,722	18.7	4,917	10.5	▲4,805	▲49.4	3,600	136.6	1,317
経常利益	10,854	20.9	6,020	12.9	▲4,834	▲44.5	4,100	146.8	1,920
四半期純利益	7,505	14.4	4,042	8.7	▲3,463	▲46.1	2,800	144.4	1,242
1株当たり 当期純利益	314.73円	—	158.91円	—	—	—	—	—	—
海外売上高	20,299	39.1	14,540	31.2	▲5,759	▲28.4	—	—	—
前提条件	23年3月期2Q		24年3月期2Q						
U S \$ / 円	130円		139円						
ユ - 円 / 円	137円		151円						
ナフサ (円/KL)	83,750円		64,500円						

セグメント（基礎化学品）

- クロール・アルカリ製品は、原燃料価格上昇にともなう価格改定が寄与
- エピクロルヒドリンは、トラブルによる出荷調整、エポキシ樹脂の需要低迷等の影響を受ける

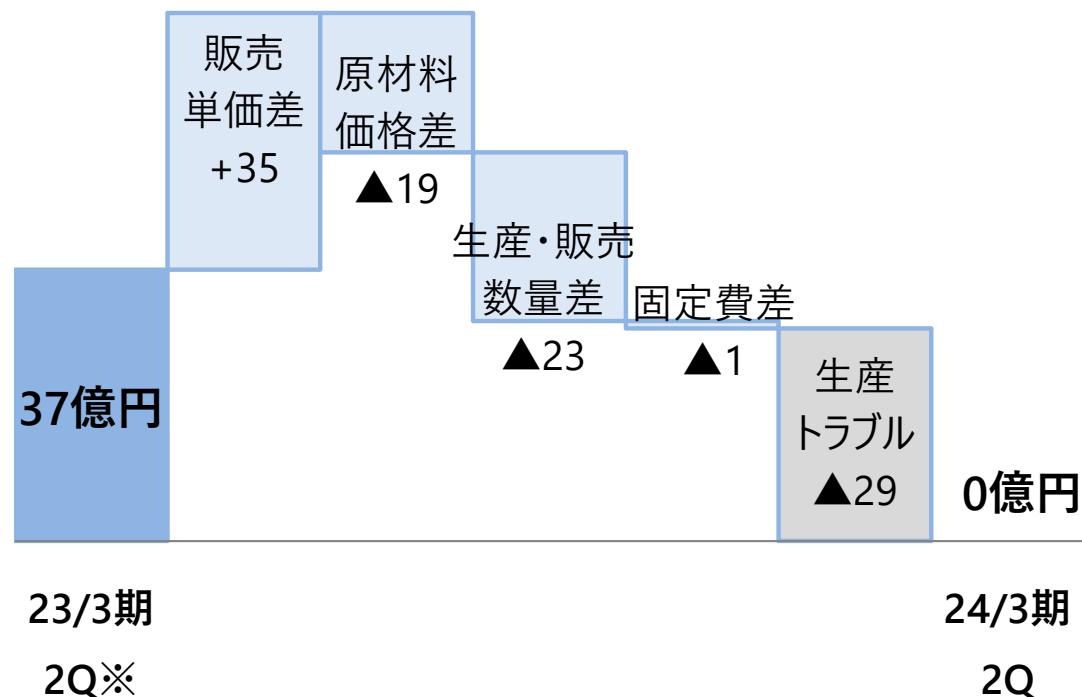
■ 売上高 ■ 営業利益 （百万円）



売上高増減（前年同期比▲27億円）

クロール・アルカリ	+26
エピクロルヒドリン	▲23
生産トラブル	▲30

営業利益要因（億円）

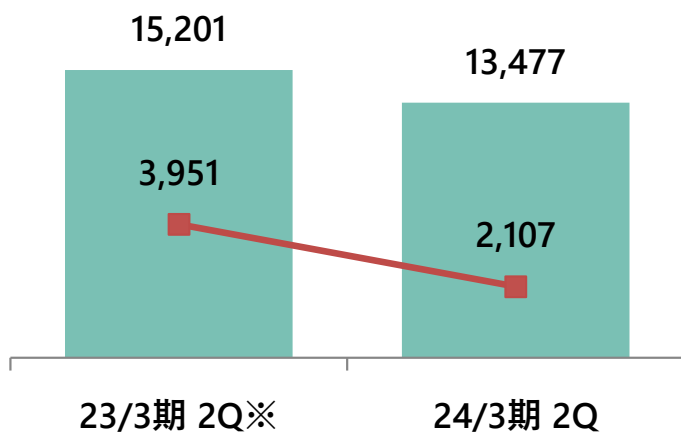


※23年3月期2Qのセグメント別数値は、新セグメントに組み替えた概算数値です。

セグメント（機能化学品）

- 合成ゴムは、自動車生産台数が回復し、エピクロルヒドリンゴムでは環境規制強化や他材料からの代替需要が増加、アクリルゴムでは新規採用が進む
- 合成樹脂は、UVインキの需要回復は限定的、中国向けは堅調も国内・欧米は需要低迷
- アリルエーテル類は、トラブルによる出荷調整に加え、機能性塗料向けを中心にシランカップリング剤の需要が低迷

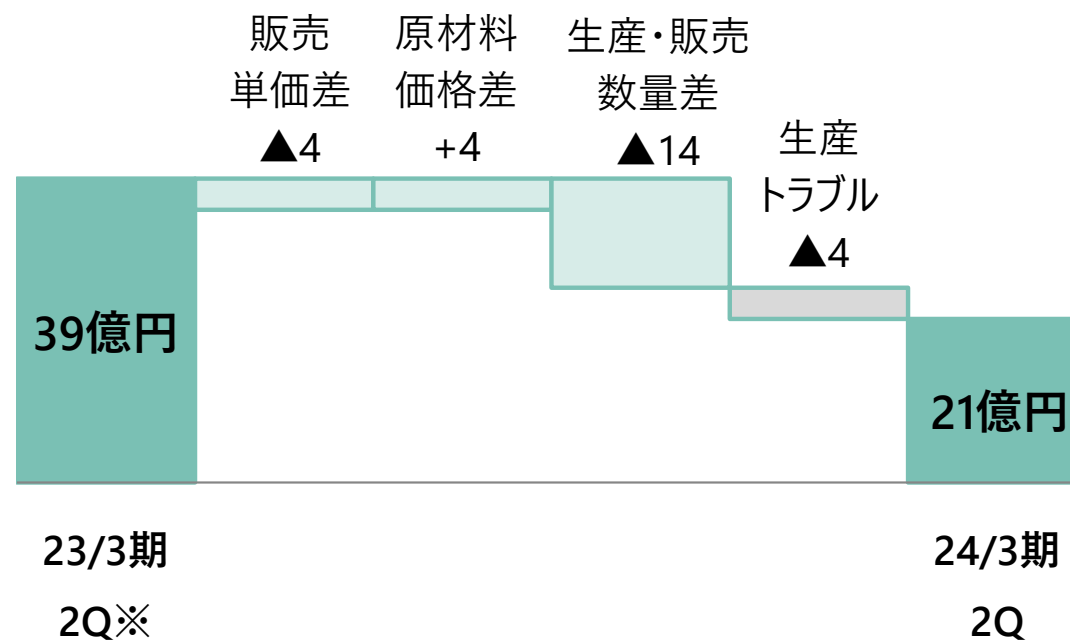
■ 売上高 ■ 営業利益 （百万円）



売上高増減（前年同期比▲17億円）

合成ゴム・合成樹脂	▲2
アリルエーテル類	▲15
電極他	+5
生産トラブル	▲5

営業利益要因（億円）

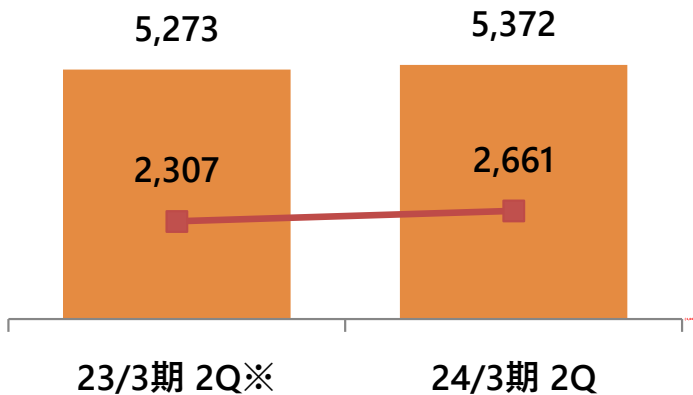


※23年3月期2Qのセグメント別数値は、新セグメントに組み替えた概算数値です。

セグメント（ヘルスケア）

- クロマトは、医薬品精製材料では、欧米ならびにアジア向け糖尿病治療薬用途等の需要拡大
- 医薬品原薬・中間体は、核酸医薬品原薬、抗潰瘍薬中間体、不眠症治療薬中間体の販売が拡大
- 松山工場シリカゲル新設備の24年内完工、尼崎工場シリカゲル設備新增設の26年内完工に向け増設計画を推進

売上高 営業利益（百万円）



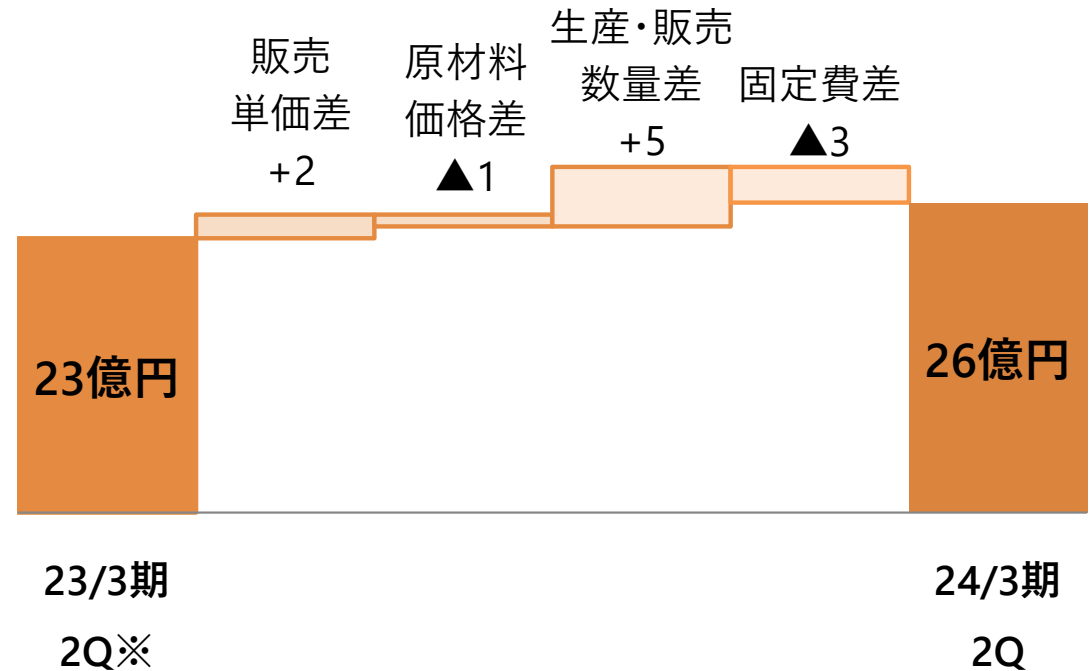
売上高増減（前年同期比+1億円）

クロマト*	+1
医薬品原薬・中間体	+0

* 医薬品精製材料、カラム・装置等分析機器

※23年3月期2Qのセグメント別数値は、新セグメントに組み替えた概算数値です。

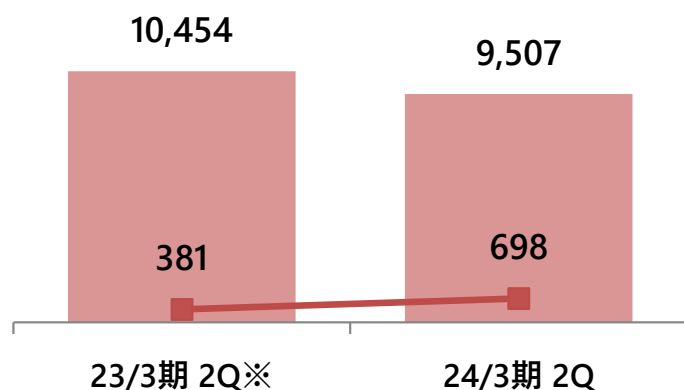
営業利益要因（億円）



セグメント（商社部門ほか）

- コンシューマープロダクツでは、前期に引き続き生活関連商品の販売が拡大
- 特殊ポリマー材料は、感光性樹脂や水処理関連商材の販売が堅調に推移
- 機能製品は、電子材料関連商材が低調

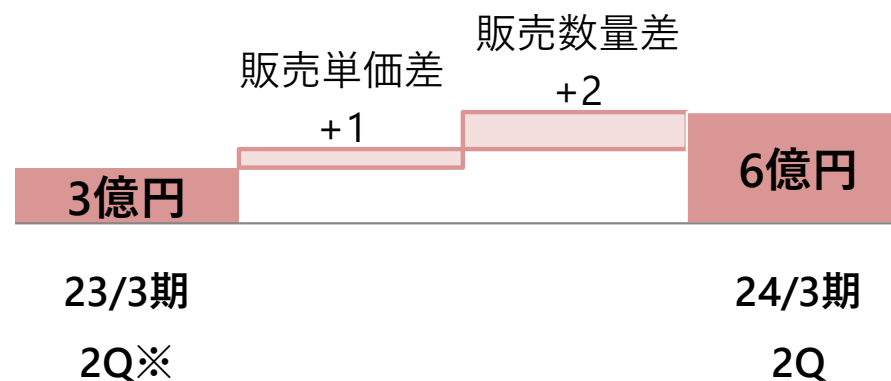
■ 売上高 ■ 営業利益 （百万円）



売上高増減（前年同期比▲9億円）

生活関連商品	+2
特殊ポリマー材料	+1
機能製品他	▲12

営業利益要因（億円）



※23年3月期2Qのセグメント別数値は、新セグメントに組み替えた概算数値です。

貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書

- 安定的な財務基盤を構築、自己資本比率は引き続き70%台と高水準を維持
- 新中計における能力増強投資、設備管理強化を含む維持・効率化投資に十分対応可能

(百万円)	23/3期2Q末	23/3期末	24/3期2Q末	23/3期末比
総資産	138,018	138,029	146,439	8,410
純資産	99,750	99,543	105,928	6,385
自己資本比率	72.3%	72.1%	72.3%	0.2%
有利子負債	7,172	7,664	7,673	9

(百万円)	23/3期2Q	23/3期	24/3期2Q	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,922	9,354	5,149	▲773
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲3,005	▲5,380	▲815	2,190
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,339	▲4,596	▲1,167	172
現金および現金同等物	39,288	36,843	40,450	1,162



2024年3月期 業績予想

2024年3月期 事業計画

- 通期業績予想は、期初計画を据え置き
- ヘルスケア事業の成長を想定する一方、中国の景気回復の遅れ等による需要低迷を懸念
- AC製造設備主要機器の全面復旧は当初計画どおり進捗、下期は生産回復後を見据えた取り組みを実施

	23年3月期		24年3月期計画		増減	
	(百万円)	構成比(%)		構成比(%)	金額	率(%)
売上高	104,208	—	105,000	—	792	0.8
営業利益	15,557	14.9	10,000	9.5	▲5,557	▲35.7
経常利益	17,164	16.5	11,100	10.6	▲6,064	▲35.3
当期純利益	10,570	10.1	7,500	7.1	▲3,070	▲29.1
1株当たり 当期純利益	428.43円	—	294.81円	—	—	—
海外売上高	39,675	38.1	37,200	35.5	▲2,475	▲2.6

前提条件	23年3月期	24年3月期計画
U S \$ / 円	134円	137円
ユ - 円 / 円	140円	150円
ナフサ (円 / KL)	75,500円	63,500円

セグメント別売上高・営業利益計画

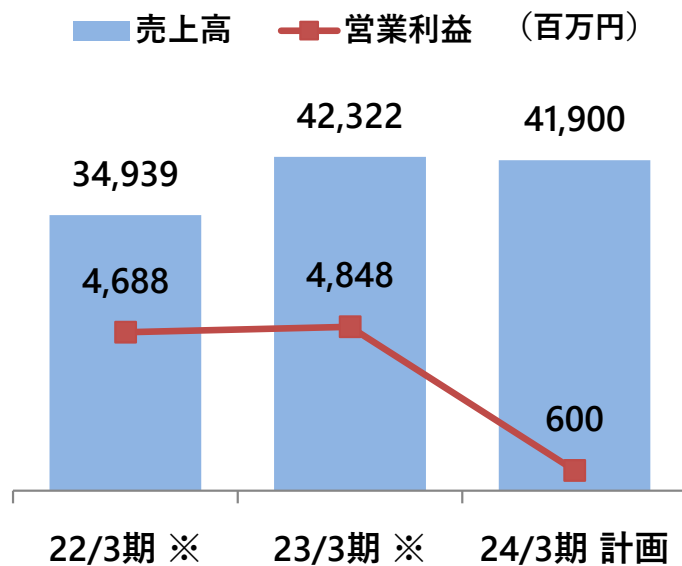
- 基礎化学品は、下期はAC製造設備主要機器不具合による影響が緩和
- 機能化学品は、下期は販売シェアの維持拡大を図る
- ヘルスケアは、下期も引き続き需要拡大を背景に好調に推移

		23年3月期※			24年3月期計画			増減		
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
		(百万円)								
売上高	基礎化学品	20,986	21,336	42,322	18,266	23,634	41,900	▲2,720	2,298	▲422
	機能化学品	15,201	16,659	31,860	13,477	16,423	29,900	▲1,724	▲236	▲1,960
	ヘルスケア	5,273	5,002	10,275	5,372	6,228	11,600	99	1,226	1,325
	商社部門ほか	10,454	9,296	19,750	9,507	12,093	21,600	▲947	2,797	1,850
	合計	51,915	52,293	104,208	46,622	58,378	105,000	▲5,293	6,085	792
営業利益	基礎化学品	3,730	1,118	4,848	59	541	600	▲3,671	▲577	▲4,248
	機能化学品	3,951	2,447	6,398	2,107	2,043	4,150	▲1,844	▲404	▲2,248
	ヘルスケア	2,307	2,308	4,615	2,661	2,689	5,350	354	381	735
	商社部門ほか	381	607	988	698	452	1,150	317	▲155	162
	全社・消去	▲648	▲645	▲1,293	▲609	▲641	▲1,250	39	4	43
	合計	9,722	5,835	15,557	4,917	5,083	10,000	▲4,805	▲752	▲5,557

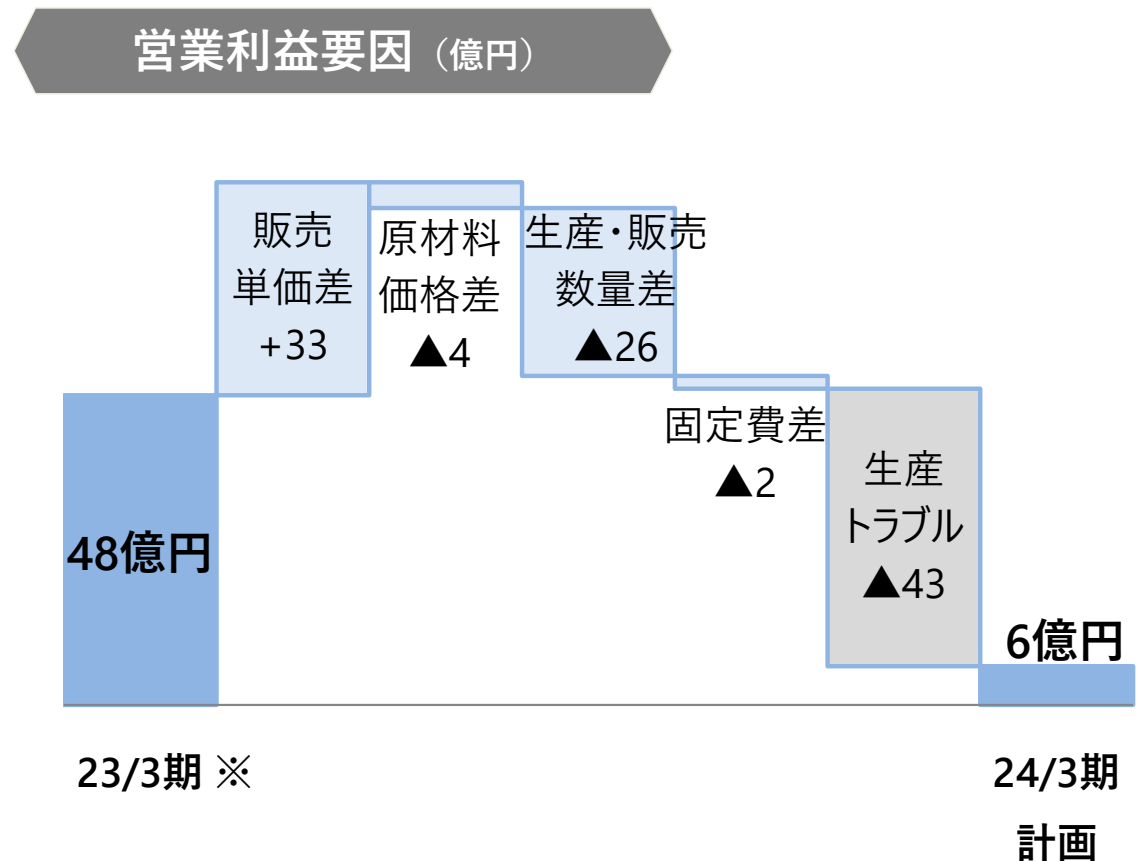
※23年3月期のセグメント別数値は、新セグメントに組み替えた概算数値です。

セグメント（基礎化学品）

- 基礎化学品全般では、下期は設備不具合の影響が緩和され生産が回復へ
- クロール・アルカリ製品は、原燃料価格の変動に応じた販売政策により数量を確保
- エピクロルヒドリンでは、生産トラブルにともなう出荷調整を解消し、販売数量を拡大



売上高増減 (前期比▲4億円)	
クロール・アルカリ	+64
エピクロルヒドリン	▲21
生産トラブル	▲47

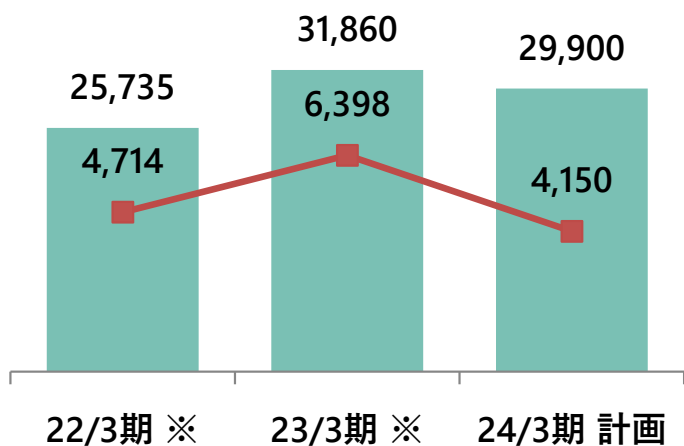


※22年3月期、23年3月期のセグメント別数値は、新セグメントに組み替えた概算数値です。

セグメント（機能化学品）

- 合成ゴムは、自動車生産台数の回復がさらに進む、アクリルゴムでは国内外で新規採用の獲得に注力
- 合成樹脂は、中国を中心としたUVインキおよび絶縁ワニスの需要回復を取り込む
- アリルエーテル類は、機能性塗料などのシランカップリング剤向け拡販

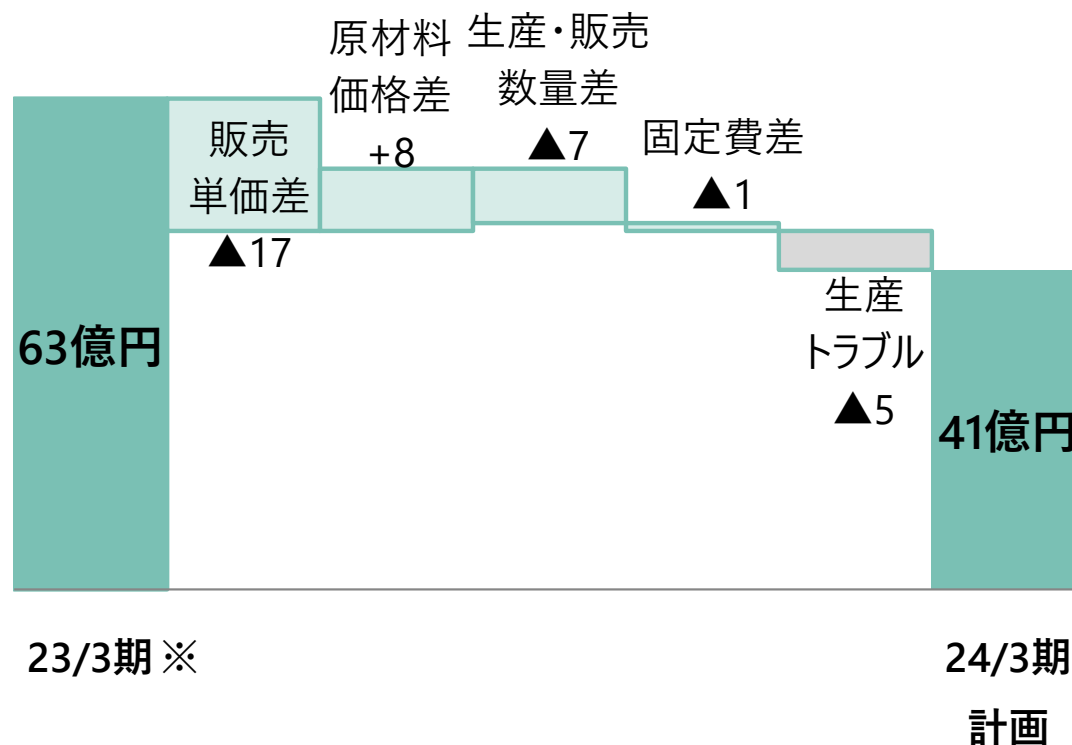
■ 売上高 ■ 営業利益 (百万円)



売上高増減 (前期比▲19億円)

合成ゴム・合成樹脂	+6
アリルエーテル類	▲9
電極他	▲10
生産トラブル	▲6

営業利益要因 (億円)

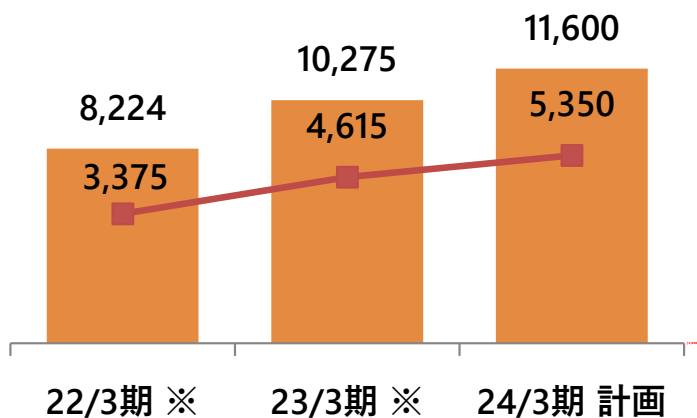


※22年3月期、23年3月期のセグメント別数値は、新セグメントに組み替えた概算数値です。

セグメント（ヘルスケア）

- クロマトは、医薬品精製材料では増強後の尼崎工場の設備能力を活かし、糖尿病治療薬ならびに急拡大する肥満治療薬向けの販売を拡大、カラム・装置等分析機器では新たにラインナップしたカラムの販売に注力
- 医薬品原薬・中間体は、松山工場PI-3設備の稼働により受注案件が増加

売上高 営業利益（百万円）

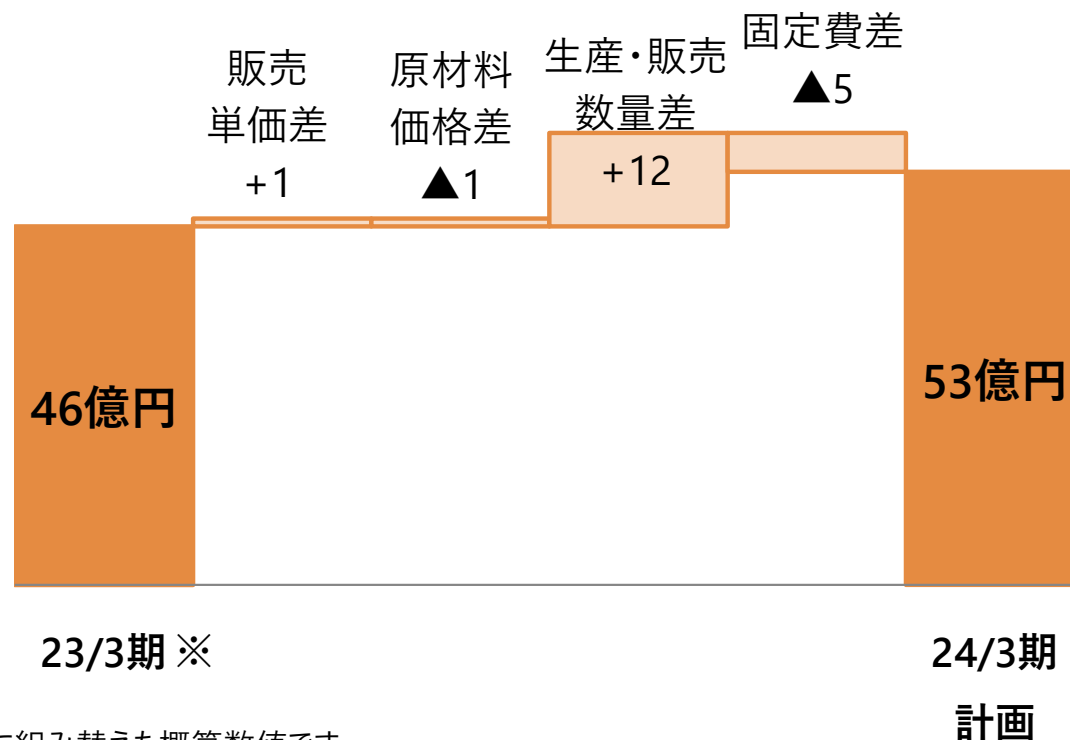


売上高増減（前期比+13億円）

クロマト*	+8
医薬品原薬・中間体	+5

* 医薬品精製材料、カラム・装置等分析機器

営業利益要因（億円）

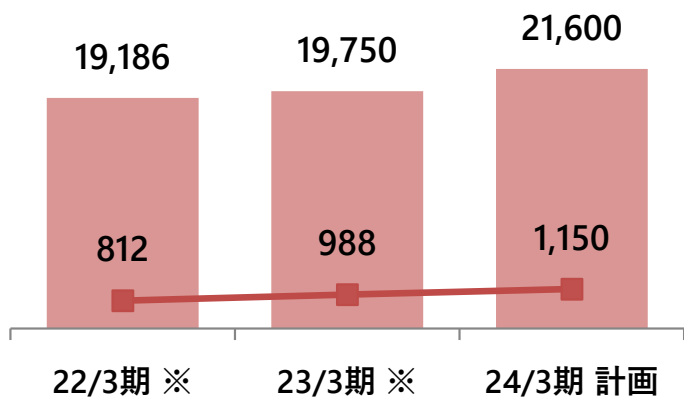


※22年3月期、23年3月期のセグメント別数値は、新セグメントに組み替えた概算数値です。

セグメント（商社部門ほか）

- コンシューマプロダクツでは、生活関連商品が堅調に推移
- 特殊ポリマー材料は、感光性樹脂では印刷需要の回復を織り込む
- 基礎化学製品では、原材料価格の変動に対応した価格改定のほか、半導体向け新規商材の拡販に取り組む

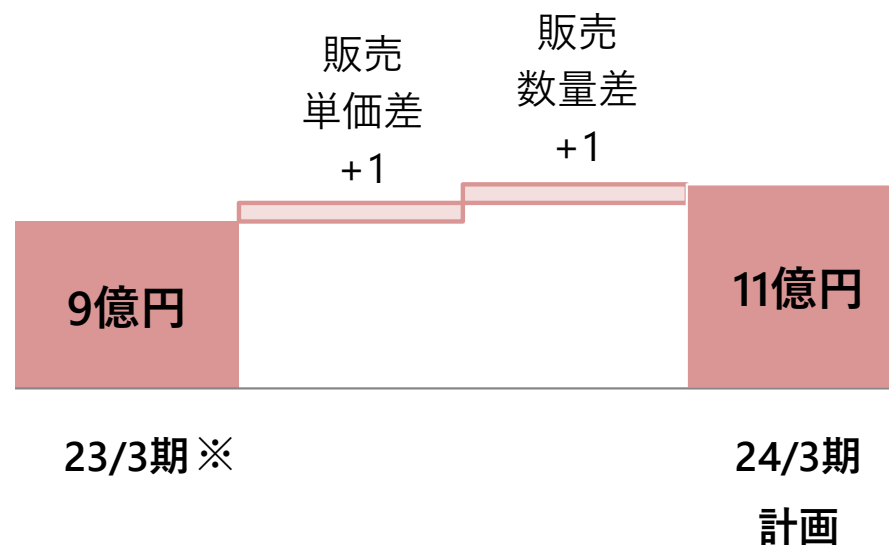
■ 売上高 ■ 営業利益 （百万円）



売上高増減（前期比+18億円）

生活関連商品	+2
特殊ポリマー材料	+3
基礎化学製品他	+13

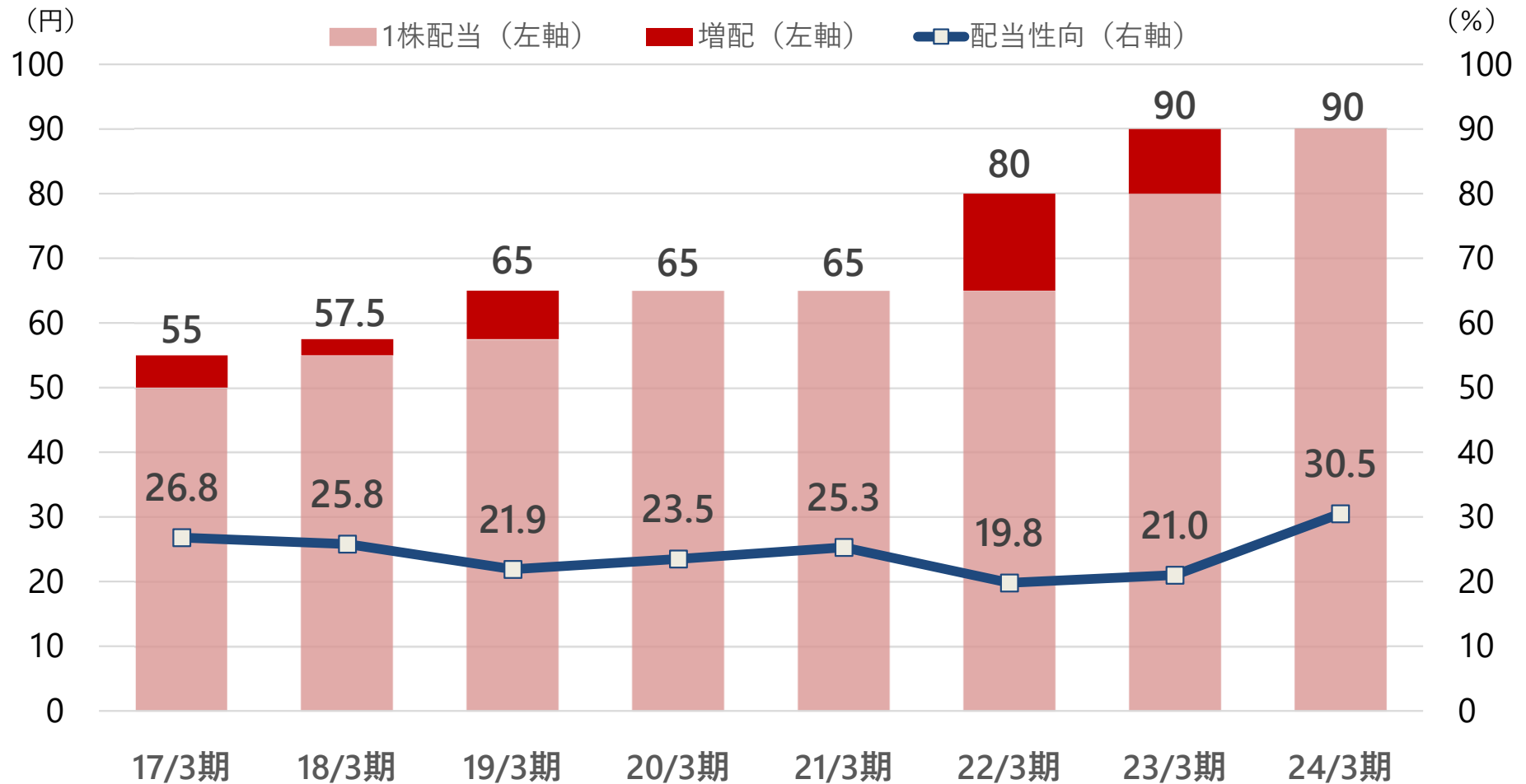
営業利益要因（億円）



※22年3月期、23年3月期のセグメント別数値は、新セグメントに組み替えた概算数値です。

株主還元

- 24年3月期は、前期に増配した年間配当90円を継続する方針
- 新中期経営計画期間において、安定的な配当の継続を図るとともに、自己株式の取得を活用し、総還元性向40%を目指す



※ 18/3期以前の1株配当は、2017年10月の株式併合後の数値に換算して記載しています。

(予)



新中期経営計画

Shape the Future-2025

当社グループの「ありたい姿」実現に向けて

- 2021年に当社グループ創立120周年における「ありたい姿」からバックキャストした長期ビジョンを策定
- 「ありたい姿」の通過点である「あるべき姿」の実現に向けた計画を実行する5年間

理念体系が実践され企業文化に根付くとともに

- 基礎化学品、機能化学品、ヘルスケアが支える強靱かつしなやかな事業基盤が構築されている
- 環境・エネルギー、モビリティ、情報・通信、健康・ヘルスケアの領域で第4、第5の収益の柱が立ち上がっている
- 「社員が実力を存分に発揮できる企業」へ変貌している

独創的な技術と製品により
安心して豊かな社会の実現に貢献します

化学を通じて社会が求める
新たな価値を提供する
企業グループ

創立120周年
2035年度
ありたい姿

2025年度
あるべき姿

MISSION

◆ グループ企業理念

VISION

◆ 経営ビジョン

VALUE

- ◆ 行動規範
- ◆ グループ人事ポリシー

「あるべき姿」実現に向けた挑戦

- 前中期経営計画の2年間は、あるべき姿の実現に向け「力を蓄える期間」と設定
- 新中期経営計画では、3年間で「あるべき姿」の実現に挑む

2025年度
あるべき姿

- 基礎化学品事業が既存事業の強化、新規事業創出、事業規模拡大により、事業環境の変化に強く、安定した収益を生み出している
- 機能化学品事業が既存事業の拡大、新規用途・材料の開発により、当社の成長エンジンとしてGNT製品を維持・拡大している
- ヘルスケア事業が、医薬品のモダリティ変化に対応し、バイオ医薬品等の成長分野へ進出している
- 新製品を継続的に上市する開発体制が構築されている

Shape the Future-2025
(2023～2025年度)

EMPOWER THE NEXT-22で構築した基盤を活かし、既存事業の継続的基盤強化、新製品の創出力強化、サステナビリティ経営の推進に取り組むことで2025年の「あるべき姿」を実現

EMPOWER THE NEXT-22
(2021～2022年度)

レジリエントな事業基盤の構築、マーケットイン型開発の推進、SDGsへの取り組み、企業文化・組織風土の改革の4つの基本方針の下に持続的成長のための基盤を構築

前中計「EMPOWER THE NEXT-22」の総括

■ あるべき姿に挑むための基盤作りを実行、実現のための課題抽出と施策立案に取り組んだ

レジリエントな事業基盤の構築

基礎化学品、機能化学品、ヘルスケアをコア事業と位置づけ、強靱化戦略を推進

- ✓ 事業部制的組織運営の開始
- ✓ 生産能力の増強（アリルエーテル類、ヘルスケア）

課題

柱となる3事業のさらなる強靱化、規模の拡大

マーケットイン型開発の推進

事業部主導により顧客ニーズを把握し、研究部門と連携して新製品を企画・開発し、早期上市を図る

- ✓ DRシステムに基づく開発テーマの進捗・改廃管理の実施
- ✓ 開発テーマの立案と促進に向けた社内の仕組み構築

課題

マネジメント力の向上

マーケットイン型開発のための全社的な取り組み強化

SDGsへの取り組み

企業活動全般を通じて持続可能な地球環境の実現に貢献するとともに、自らも持続的成長可能な企業グループを目指す

- ✓ サステナビリティ推進体制を整備（基本方針、委員会設置）
- ✓ マテリアリティとKPの設定

課題

サステナビリティ施策の推進と開示の充実

企業文化・組織風土の改革

業務システム・人事制度を刷新するとともに全階層にまたがる業務改革活動を通じ、組織力・人材力の底上げを図る

- ✓ 新たな経営理念体系の下に企業文化・組織風土改革を推進
- ✓ 人事制度の改定、人材育成方針の刷新
- ✓ 基幹システムの更新に着手

課題

各部門における業務改革活動の定着

新中期経営計画 Shape the Future-2025

■ 3つの基本方針の下、重点施策を推し進め、最終年度には過去最高の業績達成を目指す

連結業績目標 (2025年度)

売上高 1,230億円
営業利益 180億円
ROE 10.0%以上

前提条件	U S \$ / 円	130円
	ユ - 円 / 円	140円
	ナフサ (円/KL)	63,000円

基本方針

1. 既存事業の継続的基盤強化

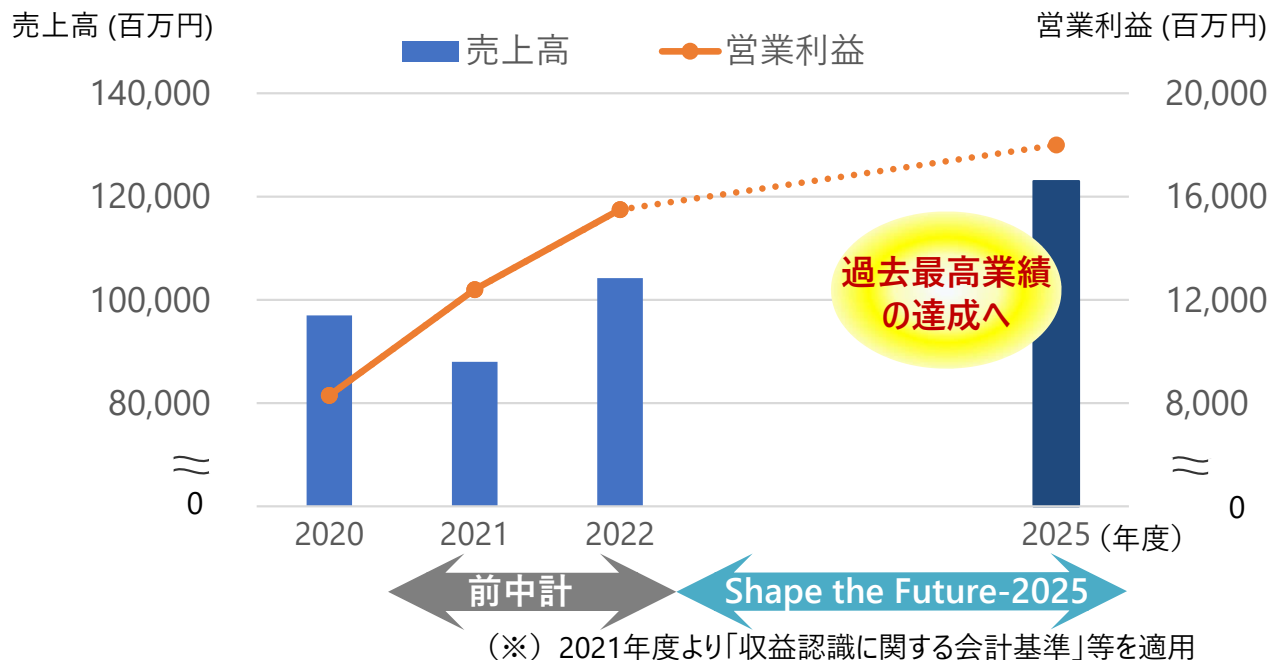
➢ 既存事業が安定したキャッシュを創出し、成長分野に積極的に投資することで事業基盤の拡充を図る

2. 新製品創出力の強化

➢ 「マーケットイン型開発の推進」を実現するための全社的取り組みを強化する

3. サステナビリティ経営の推進

➢ サステナビリティ施策推進とステークホルダーへの開示拡充により企業価値の継続的な向上に取り組む



基本方針①：既存事業の継続的基盤強化①

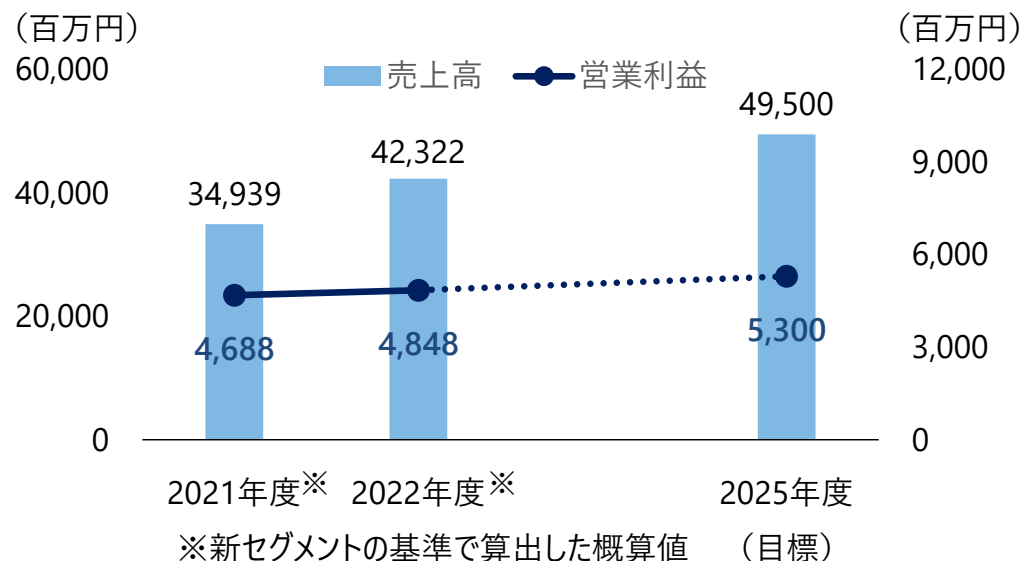
基礎化学品

強靱化

- 設備管理強化および更新維持投資に積極的に取り組む
- 現有能力でのフル生産により販売シェアの維持・拡大を図る

事業環境

- 基礎化学品全般 → ● 国内電力事情の変化への対策（省エネ、省力化）
● 温室効果ガス排出削減
- クロール・アルカリ → ● 国内の鉄鋼、紙・パルプ、石油精製などの生産規模が年々減少
● 市況は2025年に向け緩やかに上昇
- エピクロルヒドリン → ● エポキシ樹脂の需要は景気変動に連動も、2025年度に向けて拡大



重点施策

- **地場密着型営業の推進**
 - ✓ 電解4工場のバランス管理による生産最適化
- **原燃料価格変動に柔軟に対応する販売戦略**
- **効率的なサプライチェーンの構築**
 - ✓ プロセス改善等による省エネルギー化
 - ✓ 生産のDX化の推進
 - ✓ 物流効率化、体制強化によるコストダウン
- **設備管理強化**
 - ✓ 重要設備更新時の製造ライン最適化
 - ✓ 高効率機器の導入
- **生産効率化**
 - ✓ 電力原単位の改善
 - ✓ AC・EP収率向上のための技術開発推進

基本方針①：既存事業の継続的基盤強化②

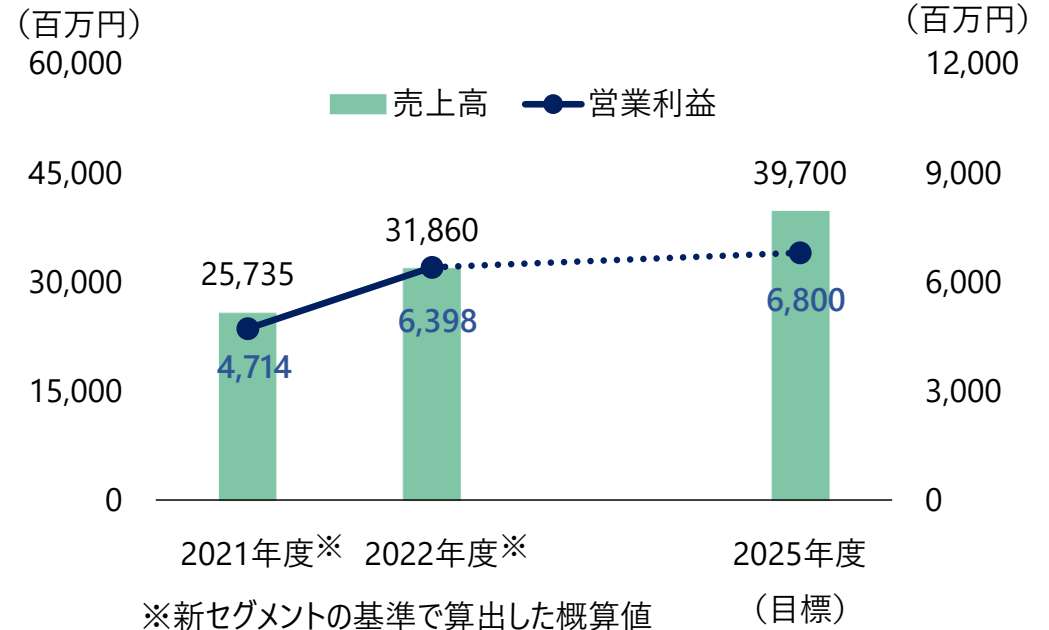
機能化学品

強靱化
規模拡大

- グローバルニッチトップ製品の市場深耕、新規用途開拓
- アクリルゴム、ノンフタレート型アリル樹脂拡販による事業規模拡大

事業環境

- アリルエーテル類**
 - エポキシ系シランカップリング剤の市場は年率3~4%で拡大
- 合成ゴム**
 - 世界自動車生産台数は2025年には9,700万台まで回復
- 合成樹脂**
 - UVオフセットインキ市場は、油性インキからの置き換えが進む
 - デジタル化・ペーパーレス化の影響は限定的



重点施策

- アリルエーテル類の設備能力増強
- 合成ゴムの拡販
 - ✓ 新規用途開拓、新規グレードの拡充
 - ✓ 技術支援体制を強化、アクリルゴム市場でシェアを拡大
- 北米コンパウンド事業の収益改善
- 合成樹脂の拡販
 - ✓ ノンフタレート型アリル樹脂による欧米向け食品パッケージ印刷需要の取り込み

基本方針①：既存事業の継続的基盤強化③

ヘルスケア

規模拡大

- 医薬品精製材料、医薬品原薬・中間体において、近年拡大中の需要を取り込み、収益力を強化
- 将来の需要増加に備え生産能力を増強

事業環境

医薬品
精製材料



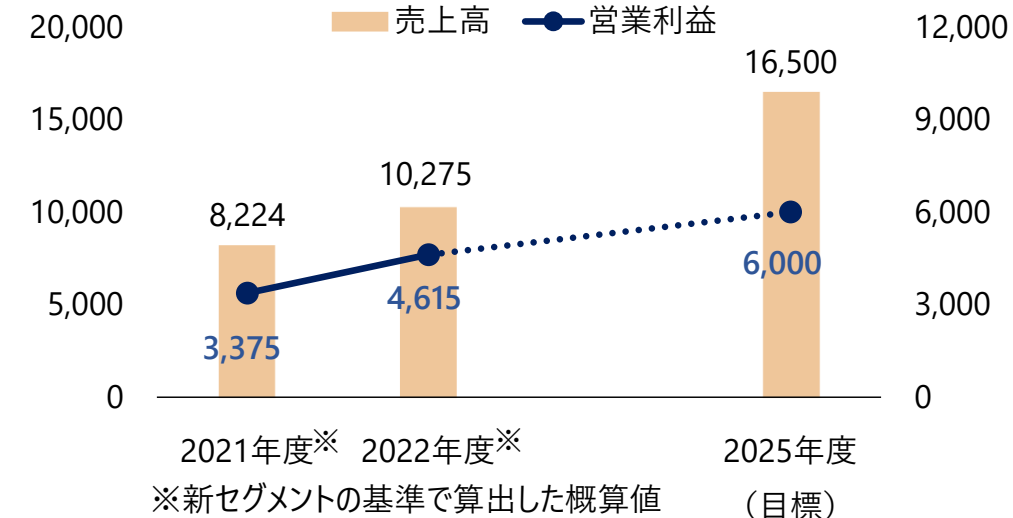
- 糖尿病治療薬（GLP-1受容体作動薬含む）は年率10%で伸長
- 肥満治療薬は高い成長ポテンシャルを維持、バイオシミラーによる市場参入を予測
- 中分子医薬品の精製市場が成長

医薬品
原薬・中間体



- 世界の医薬品市場は年率3~6%で拡大
- 品質問題や環境規制の厳格化により原薬・中間体における調達の国内回帰加速
- 中分子医薬品の開発が進む

(百万円)



重点施策

【医薬品精製材料】

- 拡大するシリカゲル需要の確実な取り込み
 - ✓ グローバルオペレーション強化、ブランディング強化によるグローバルデファクトスタンダード化
- 将来の需要増に備えた生産能力の増強
- ポリマーゲルの開発・事業化

【医薬品原薬・中間体】

- PI-3設備の早期フル稼働
- 次期設備増強
- 高薬理医薬品分野の強化
- バイオ医薬品分野への進出

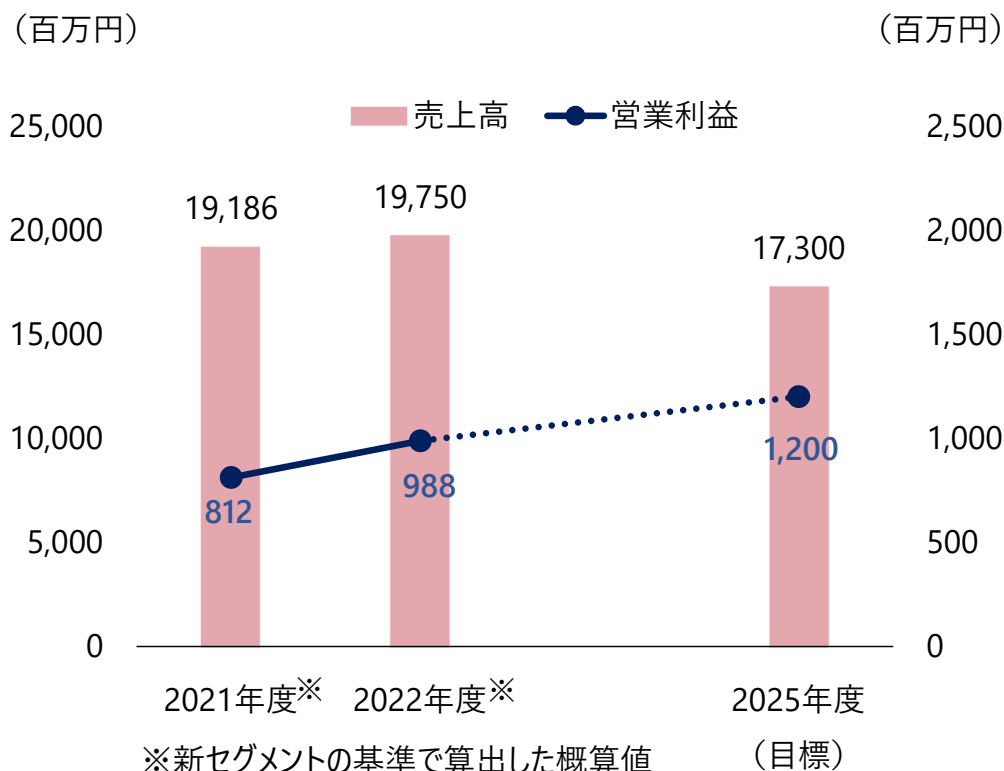
基本方針①：既存事業の継続的基盤強化④

商社部門ほか

- 大阪ソーダグループのアンテナ機能として情報収集能力を強化
- 国内外において事業領域の拡大と収益力の強化を図る

重点施策

- 海外現地法人の収益力および情報収集能力の強化
- 半固体電池の量産化促進
 - ✓ 特殊ポリエーテルを用いた半固体電池のアッセンブリー
- コンシューマープロダクツ事業の拡大
 - ✓ 中国拠点を活用した生活関連商品の企画開発力強化
- 感光性樹脂の新規開発品の販売
 - ✓ 関連商材の拡販およびテクニカルサービスを含めた事業の強化
- 基礎化学製品事業の収益改善



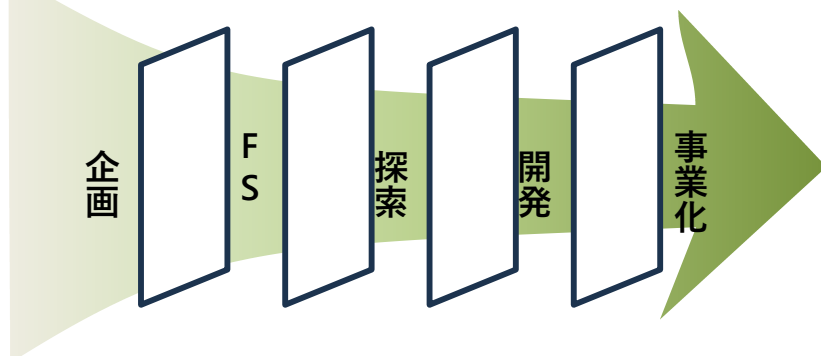
基本方針②：新製品創出力の強化

- マーケットイン型開発を一層推進し、次世代の収益の柱となる製品を育成
- 開発スピードを向上させ、新製品を継続的に上市する開発体制の構築を目指す

開発マネジメント力の向上

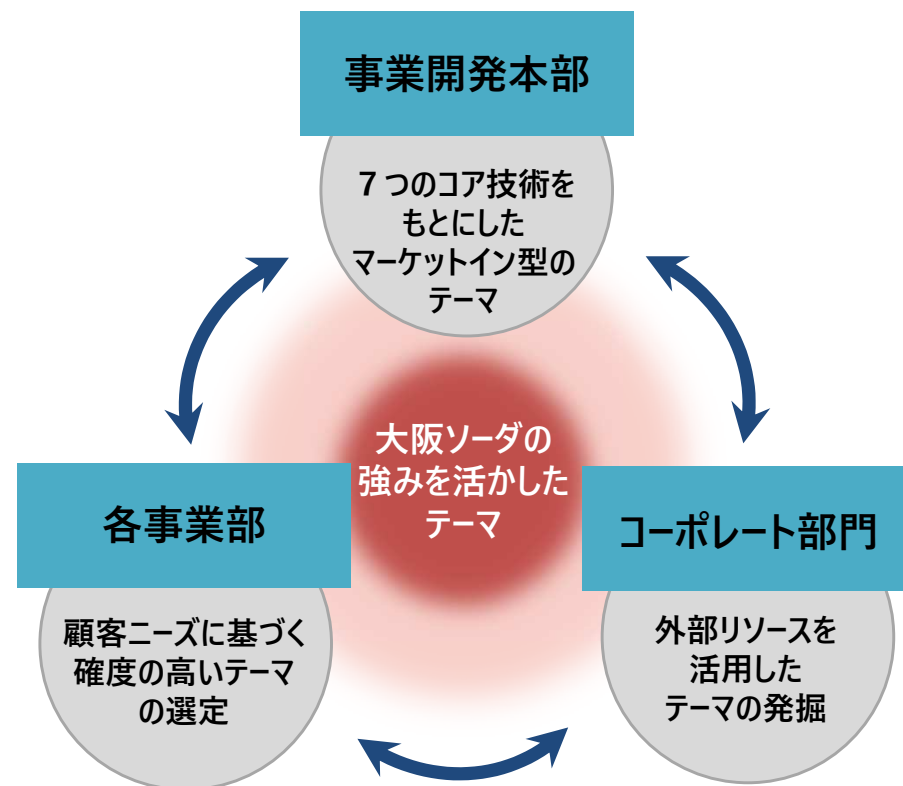
- 組織体制・人材マネジメント
 - ・スキルマップを活用した戦略的なリソース配分
 - ・各職務階級に適した育成計画
- テーマ進捗管理の強化
 - ・デザインレビュー（DR）による開発テーマ進捗管理
- 開発インフラ整備
 - ・開発支援システムの導入によるナレッジマネジメントの浸透

【DRによるテーマ進捗管理イメージ】



マーケットイン型開発の全社的な取り組み強化

- 各事業部、コーポレート部門、事業開発本部が夫々の視点で開発テーマを探索



基本方針②：新製品創出力の強化

- 4つの注力領域において当社の独創的な技術力を発揮できる開発テーマを選定
- 前中計で創出された開発テーマの事業化と、新たな開発テーマの育成を推進

環境・エネルギー

蓄電池用材料



主なテーマ

- LIB用ポリマー電解質（特殊ポリエーテル）
- 全固体電池用高イオン導電性材料
- SiO系負極バインダー 等

モビリティ

自動車ニューノーマル材料

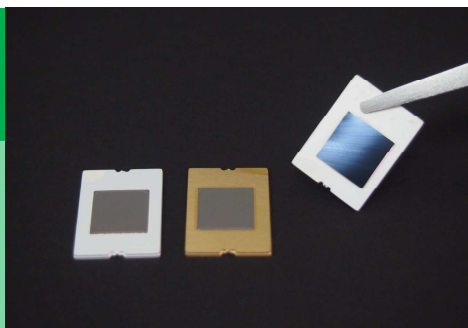


主なテーマ

- アクリルゴム新規グレード
- センサー・アクチュエータ材料
- ポリマーアロイ材料 等

情報・通信

半導体周辺材料



主なテーマ

- ダイボンド材向け銀ナノ粒子（SiC、GaN系パワー半導体用）
- カーボンナノチューブ 等

健康・ヘルスケア

バイオ医薬品用材料 健康長寿



主なテーマ

- 新規カラム（サイズ排除、耐アルカリ）
- アンチエイジング素材
- バイオ医薬品用新規精製材料
- タンパク医薬品（受託） 等

基本方針③：サステナビリティ経営の推進

- 各種施策を推し進めるとともに、ステークホルダーへの充実した開示により継続的な企業価値の向上に取り組む

産業基盤を支える製品群の安定供給

- 安心して豊かな社会実現に貢献する製品群の安定供給

独創的技術を用いた新製品の開発

- 持続可能な社会実現に資する新たな価値の提供

開示

環境負荷低減の立案と実行

- 温室効果ガス排出量削減、廃棄物埋立処分率低減
- 生産効率向上による資源消費量の削減

人材活用

- 健康経営の推進
- 女性活躍推進、シニア人材活性化
- 人材育成の強化

主な取り組み	KPI	2022年度実績	目標
女性活躍推進	2025年度の管理職の女性割合 (係長・主任含む)	6.3%	8.7%以上
温室効果ガスの排出削減	2030年度CO2排出量削減率 (Scope1+Scope2の合計, 2013年度比)	11%	30%
産業廃棄物埋立処分率の低減	2030年度産業廃棄物最終埋立処分率	6.3%	1%未満

生産トラブルの撲滅に向けて

- 水島工場AC製造設備主要機器の不具合発生を受けて、BCPの観点から、①設備管理レベルの向上、②安定供給体制の強化の対策を実施

設備管理

- 2021年度に設備管理システムを刷新

診断技術向上

- 非破壊検査の強化
- 振動監視の強化
- 劣化診断項目の見直し
- 診断技術の習得、向上

設備・機器更新

- 大型重要設備の製造ライン最適化
- 改良保全の実施（高効率・長寿命化）

周期管理強化

- メンテナンス周期の再設定・標準化
- 機器更新周期の再設定・標準化

予備機・予備品管理

- 保有の指標を標準化
- 予備部品の共通化

①設備管理レベルの向上

生産に甚大な影響を及ぼす最重要機器を選定し、管理を強化

- 最重要機器の予備品拡充
- 更新周期の短縮・明確化

②安定供給体制の強化

運転管理の厳格化およびスキル向上等の対策を全社展開

- 流動シミュレーション等の解析に基づく適正運転範囲の見直し
- 早期復旧体制の強化（複線化、予備機の設置等）

設備強化等の対策投資：15億円（3年間）

投資計画

- 総額250億円の投資計画に加え、別途M&A、アライアンス等の投融資枠200億円を設定
- ヘルスケア事業を中心とした製造能力増強、研究開発、情報インフラ等の戦略投資を計画
- 維持・効率化投資では、通常の維持更新に加え、予防保全等の設備管理強化を実施

■ 戦略投資 ■ 維持・効率化投資

維持・効率化投資

- 電解設備更新
- 各工場の老朽化設備更新など

95億円

155億円

戦略投資

- シリカゲル製造設備（松山）
- シリカゲル製造設備（尼崎2期増強）
- 高薬理活性医薬品原薬・中間体量産設備
- アリルエーテル類製造設備（増強）
- 基幹システム
- 電池研究棟 など

お問合せ先：
株式会社 大阪ソーダ
経営企画部 広報グループ
TEL：06-6110-1560

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではありませんのでご了承ください。